

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第32回「aiskrim」

後藤滋樹

goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

【重要なマレー語】

インターネットの国際会議INET '97が6月24日から27日まで、マレーシアのクアラルンプールで開催された。

私はどこを旅行しても、まず言語に興味を引かれる。マレーシアは、マレー語である。これは当然としても、実はインドネシアもマレー語であるという。シンガポールでは英語、中国語、マレー語、タミル語が使われているが、そもそもSingaというのはライオンを意味するマレー語である。結構マレー語の勢力圏は広い。

INET'97の会場となったワールドトレードセンターの向かい側には、ショッピングセンターがある。その中のアイスクリームスタンドの看板に「aiskrim」と書いてあるのを見て、最初は日本語かと思った。というのも、そのビルの中にはヤオハンデパートがあり、寿司屋もあったからである。しかし日本語のローマ字表記としては妙である。その謎を解くべくaiskrimは食べずにヤオハンの中の書店に向かう。マレー語の辞書で確認してみると、aiskrimは小さな辞書にも載っている歴としたマレー語であった。その意味は、もちろんアイスクリームである。

【カメラは旅行に必携か】

aiskrimのように面白い場面では写真を撮っておくと良い。初めて接する言語では正確に書き取るのが難しい場合がある。例えば、私にはタイ語やアラビア語の知識が不足している。簡単な単語ですら書き取ることが困難である。

以前にこの「新・社会楽」では、海外旅行必携と銘打っていくつかの小物を列挙した。その折には単眼鏡（双眼鏡）を紹介したが、カメラには触れなかった。カメラを持って歩く人は多いから特に言及しなかったという側面もあるが、私自身が持っていないことも多い。今回のマレーシア訪問でもカメラは持って行かなかった。それでaiskrim屋の写真は撮れなかったが、代わりに書店でマレー語の小さな辞書を購入した。

私は、最近ではカメラの別の効用を感じている。それは「カメラは健康に良い」ということである。これは少し説明が必要だと思う。

【健康に良い理由】

ここで健康というのは精神的な健康である。健全な精神は健全な肉体を育てる。

写真を撮る時の心理状況を考えてみると、自分（主体）は撮影する側、被写体（客体）は撮影される側である。そんなに難しいことを言わなくても、撮影する側に心のゆとりがある。このゆとり

が大切なのだ。つまり自分は客観的に見ているのだ、という姿勢がとれる。

もちろんカメラ・写真が客観的だとはいっても、誰でも同じ写真が撮れるというわけではない。プロにしか撮れない写真というものがある。しかし、どのような芸術的な写真であっても絵画ではない。写真は現実の瞬間の記録だという説得力がある。

このカメラ・写真の効用は、もちろん旅行に限らない。最近のカメラブームでは自分自身を撮影することも流行しているようだが、単に自分の顔だけではなく、例えば国際会議で講演しているところや、場合によると激しく議論している場面が撮れると面白い。いかに客観的という感じがする。もっとも自分が動いている場面の写真を撮るには工夫と道具が必要となる。

カメラがなくても、自分が撮影する立場にあると仮に考えるだけで、余裕が生まれる場合がある。こうなると脳内健康法に近い。心を落ち着かせるための暗示のようになる。もっとも私自身はこのように考えていても、議論に入ると興奮してしまうことが多い。まだ修行が足りないというべきだろう。



【俳句も健康的】

客観的 = 健康という図式で考えてみると、俳句も健康に良いと思う。ここでは文学的な形式には拘らないから、川柳でも同じことである。人間世界の喧嘩などを冷静に扱うには川柳が適しているのかもしれない。サラリーマンのストレス解消のために、会社への文句を川柳で表現する。単に文字で書くのならばどンドン書ける。しかし川柳といえども一応の形式がある。いろいろと表現を練るうちに、問題をいろいろな角度から多面的に捉えることになる。ここでも客観的な立場が重要である。文句を主観的に書いたのでは、他の人に伝わらず、川柳にならない。

【神様が見ている】

客観的な効果を持つものは、カメラと俳句に限らない。趣味を選ぶならば、そのような面にも留意したほうが良いと思う。

友人と喧嘩をした夜に星空を見上げると、小さな地球の小さな喧嘩は宇宙のスケールの中では意味がないように思える。私は宗教に造詣が浅く、理解が充分ではないが、神様がどこかで見ているという感覚は、それに近いのかもしれない。そう思っただけで空ならぬホテルの天井を見上げると、そこにはイスラム教の礼拝の方向を示す印があった。タイ南部からマレーシア、インドネシアはイスラム教の人口が多い。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp